



10月4日・新潟競馬場 初勝利のウイナーズサークル

小島友実の あの馬の STORY



ボーンレジェンド

一頭一頭取材していく私の「一勝」が牧場や厩舎が相当苦労して揃んだ勝ち星であったと知る事があります。

田島俊明調教師が管理するボーンレジェンドは去年秋に未勝利戦、500万クラスを連勝。一見、順調そうに見ええますが、この馬がいよいよ来ぬとい、厩舎はかなりの手を尽しました。今はその道程をじっくり紹介します。

カワハラクンオーナー産駒のボーンレジンド。育成段階は順調で、4月末には美浦トレセンへ厩舎しました。

「社会人の方からは『血統的【ホーリーホーム】が高くなつやすい馬』と聞いていましたが、当初はゲートを中心になじ悪くはなれませんでした。

トドゴー戦は新馬戦が始めた週、6月2日の東京芝1600m。それでも勝ったアーリントンタタミを相手にボーンレジンドが一番人気と支持されていたのですが、この馬の素質の高さがうかがえます。しかし結果は3着。2戦目は追い込んで2着。その後も勝つきれず、段々レースを重ねるにつれて、ゲートに対する問題が出来るようになりました。

「レースを使いつぶし影響が、ゲートの出が悪くなつたんですね。特に6戦目、2戦の東京戦ではゲート内で立ち上がりてしまい外枠発走（結果は3着）。このレースでゲート再審査になってしまったので、短期放牧から帰厩後は

美浦でのたましのゲート練習をしました。でも最初の頃はゲートに近寄らなかった勝ち星であったと知る事があります。

「世代最後の未勝利戦でしたからね。最後のナヤンス。柴山雄一騎手には『ペターネが良かつた』に行けただけで、いつも同じ時間一緒に過ごしていました。負ければ罰金もしない状況でした。負けた時は特に長い時間一緒に過ごしていましたね」と語ります。この間、様々な策が講じられました。

「矯正方法の一つめは、ゲート縛り。をやめていたましたが、必ず飛ばされ出来ませんでした。そんな中、疊添にてヨーニンヤンクを巻く方法は少し効果がありましたね。結局、2月のレースを走つて次のレースを走れるまでの約5カ月間。放牧に出でても外ではほぼ毎日、厩舎でゲート練習していました。それも1回の練習は1時間半はかかりますからね。とにかくこの馬は時間がと手をかけました」

「戦目は少しずつゲートの短距離が合ひはじめたので、これからもこの路線でします。能力的にまだ可能性のある馬です。気性面をアシナル、上手く引き出ししてあげたいですね」

ボーンレジンド。実は田島厩舎じり、今度は3週間の出走停止となつてしまつます。引き続き厩舎では札幌でもゲート練習を重ね、鞍具からペースも工夫も施しました。その成果が少しでも見え始め、8戦目の札幌戦では好スタートからの着。そして、努力の活躍を見守つたのです。

甲斐が現れる瞬間がやつしもあわ。10月4日・新潟の未勝利戦で逃げ切り勝ちを収めたのです。

「世代最後の未勝利戦でしたからね。最後のナヤンス。柴山雄一騎手には『ペターネが良かつた』に行けただけで、いつも同じ時間一緒に過ごしていましたね」と語りました。負けた時は特に長い時間一緒に過ごしていましたね」と語ります。この間、様々な策が講じられました。

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」（毎週金曜19:00～20:30）、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。